

只見町ブナセンターだより



河野昭一先生、南方熊楠賞受賞記念

子どもブナサミットに参加を！

～震災にも負ケズ、原発事故にも負ケズ、ブナ林と共に生キル！～

1 目的

只見町ブナセンター名誉館長の河野昭一先生が、今年5月、名誉ある南方熊楠賞を受賞されました。河野先生は、全国のブナ林をはじめとする自然環境の保全に尽力され、さらに只見町のブナ林の保護とブナセンターの設立にも尽くされました。このことを記念して、将来これらの貴重なブナ林を託される全国の子もたちが集まって、「第3回子どもブナサミット」を開催します。さらに、東日本大震災による地震や津波の被害、そして原発事故によって避難を余儀なくされている子どもたちを招待し、ブナ林と一緒に散策しながら、自然の豊かさを体験してもらおう機会にしたいと考えています。

2 日時

平成23年8月20日（土）～21日（日）

3 場所

福島県南会津郡只見町

4 スケジュール

【8月20日（土）】会場は「季の郷・湯ら里」コンベンションホール

13:00

開会

13:20～14:10 講演 河野昭一先生（京都大学名誉教授）

テーマ「ブナの生活史、分布、重要性」

14:25～15:50 小学生によるブナ報告とディスカッション

16:00

閉会

17:00～19:00 バーベキュー懇親会

【8月21日（日）】会場は布沢地区「癒しの森」と呼ばれる森林

8:30

集合場所「森林の分校ふざわ」

9:00～11:00 「癒しの森」に移動して班別にブナ林を散策

11:00～11:15 河野昭一先生からのまとめ

11:30～12:20 昼食

12:20～12:30 「只見宣言」

12:30

閉会

- 5 出席するこどもたち
【町内】只見町各小学校6年生 合計38名
【町外】小学校高学年33名 保護者24名
- 6 自由参加について
こどもから大人まで、誰でも自由に参加できます。参加費は無料です

【8月20日の講演会】
予約不要、当日会場にお越しください

【8月21日のブナ林散策】
小学生以下は保護者同伴です
事前に只見町ブナセンター ☎0241-72-8355 に申し込みください

- 7 主催：只見町、後援：(株)東邦銀行

【ただみ・ブナと川のミュージアム特別展示】

世界のブナ展 ～只見から世界まで～

会期：7月16日（土）～9月30日（金）

只見町には、豊かな自然環境が残されています。なかでも多雪環境の下で形成された雪食崩壊地に張り付く低木林と安定した立地に発達するブナに代表される冷温帯落葉樹林が、自然の姿で広大な面積にわたって残されていることが特徴の1つにあげられます。

このブナ林は、世界的にみても稀な多雪環境で成立するブナ林で、特異な植物社会学的な組成と構造を有しており、生物多様性に富み、学術的にも貴重な存在といえます。

くわえて、北半球の冷温帯地域にかつて存在したブナ林は、有史以来、人の手が加わり、伐採、利用などにより面積を減らし、今日、原生的なブナ林を見ることは困難となっています。

今回の展示は、世界に分布するブナの仲間を紹介し、こうした只見町のブナ林の価値を知るためのきっかけとしていただきたいと考えます。

【第12回ブナセンター講座】

世界のブナ、只見のブナ

講師：福嶋 司さん（東京農工大学）

日程：9月11日（日）



世界のブナ林を調査・研究してきた福嶋司先生が、世界のさまざまなブナ林を紹介しながら、只見町のブナ林との比較をお話します。

只見町ブナセンター活動報告

●第 11 回ブナセンター講座を開催 講師：菊地 賢さん

ユビソヤナギは“多雪地に生きるヤナギ”

只見町ブナセンターでは、4月23日(土)から6月19日(日)まで「絶滅危惧種ユビソヤナギのすべて」と題した特別展示を「ただみ・ブナと川のミュージアム」で開催しました。これに関連し、5月8日(日)には、ユビソヤナギ研究の第一線に携わる菊地賢さん(森林総合研究所)を講師に招いて、ブナセンター講座「ユビソヤナギの生態と只見の自然」を開催しました。受講者は30人で、町内をはじめ、会津坂下町や新潟市からも参加しました。



ユビソヤナギの雄花 (写真提供：菊地賢さん)

伊南川は、国内最大のユビソヤナギ自生地

町内を流れる伊南川や只見川のほとりに、ヤナギの仲間を主役にした豊かな水辺林が広がっています。オノエヤナギ、ユビソヤナギ、オオバヤナギ、シロヤナギ、ネコヤナギなどが分布していますが、ヤナギの仲間は見分けがむずかしく、どれも同じように見えます。

そのひとつ、ユビソヤナギは、1972年に群馬県の湯檜曾川で発見された日本固有のヤナギで、2003年には、町内の伊南川でもみつかりました。現在は流域80km以上に渡って2497本が確認され、国内最大の自生地として注目されています。

菊地さんは、ユビソヤナギが新種として発表されるまでの経緯とその後の経過を紹介し、「伊南川での発見が、その後の流れを大きく変えました」と説明します。これまで太平洋側のみ分布していると思われていたユビソヤナギが、はじめて日本海に流れる川で発見され、調査の範囲を広げたところ、本州北部の多雪地



ブナセンター講座



伊南川と黒谷川の合流点で観察会

域で次々と発見されることになったとのこと
です。

「ユビソヤナギは、めずらしい植物というより
も、多雪地域の山地河畔林を代表する植物だ
といえます」と、菊地さん。川のほとりに生える
ヤナギの仲間は、川の氾濫を利用して世代交代
する特徴があります。ユビソヤナギは、ほかの
ヤナギより早く、4月上旬には花を咲かせます
が、それは雪どけ水が収まるタイミングに合わ
せて種子を散布させるためだとされています。

ユビソヤナギの保護には、水辺の自然環境の 保全と住民の関心が重要！

次の話題では、多数の新たな自生地の発見に
よりユビソヤナギの絶滅の危険性が低くなり、
絶滅危惧種ⅠB類からⅡ類へと変更されたこと
が説明されました。菊地さんは「だからとい
って楽観視はできません。河川改修工事などで、
各地の自生地が失われている現状があります。
ユビソヤナギの寿命は短く 30 年から長くて
50 年です。めずらしい種として単一で保護す
るのではなく、ユビソヤナギを含むヤナギ林が
世代交代を続けていける自然度の高い河川を
守っていくことが大切だと思います。伊南川流
域のように、広範囲で自然が残っている河川は

全国でも限られています。また、ユビソヤナギ
の調査にあたった「ただみの自然に学ぶ会」な
ど、関心の高い人々がいることも大切なことだ
と思います」と話しました。

質疑応答では、「伊南川の保全状況は？」「雑
種との見分け方は？」「温暖化の影響は？」な
ど、熱心な質問があがりました。ユビソヤナギ
について知りたいことがありましたら、「ただ
み・ブナと川のミュージアム」にご相談くださ
い。館長の鈴木和次郎をはじめ、スタッフやボ
ランティアができるかぎり対応をいたします。

午後は、伊南川と黒谷川の合流点に移動して
現地観察会をおこないました。参加した 15 人
は、ヤナギの花の香りに包まれながら、ゆっく
りと時間をかけてヤナギ類の見分け方を学び
ました。

菊地 賢（きくち・さとし）さん

独立行政法人森林総合研究所、生態遺伝研究
室、主任研究員。オオヤマレンゲ、ユビソヤナ
ギ、ハナノキなどを対象に保全遺伝学、系統地
理学的研究に携わる。『只見町文化財調査報告
書第 14 集・ユビソヤナギの生態と遺伝』に、
鈴木和次郎館長（当時、森林総合研究所在籍）
と共に携わる

●小学校の総合学習授業

「何に興味がわくのか」発見のチャンス

町内の明和小学校 5 年生 11 人、只見小学校 5 年生 19 人の総合学習授業をはじめ、町外から
も遠足として、喜多方市高郷小学校や福島市飯野小学校の生徒が訪れました。子どもたちは、さ
まざまな展示のなかから、興味をわいたテーマをみつけて、調べていました。また、明和保育所
の親子遠足では、木工クラフトを楽しみました。



明和小学校 5 年生



只見小学校 5 年生



飯野小学校 5、6 年生

●只見町ブナセンター運営委員会

交流の拠点、研究、教育の拠点として

6月9日、「ただみ・ブナと川のミュージアム」において、平成23年度第1回目の只見町ブナセンター運営委員会が開催されました。運営委員および事務局、そして目黒吉久町長を交えて、17人が出席しました。

目黒邦友運営委員長の司会進行で議事が始まり、最初にあいさつに立った目黒町長は、ブナセンターの役割について「①自然や教育、健康をテーマにした観光交流の拠点であること。②自然首都、只見町にふさわしい研究、教育の拠点であること」とし、今後のセンターの諸活動に期待感を示しました。

次いで、新任の鈴木和次郎館長があいさつし、「これまで只見町を訪れる度に、自然の豊かさに驚かされました。只見町の自然環境は、世界的に見ても貴重な財産であり、保護、保全するとともに、調査・研究を重ねていくことが大切です。その成果をブナセンターに蓄積し、情報発信の場、教育の場として利活用いただけるよう努力していきたい」と語り、関係者の理解と

協力を求めました。

議事は、平成22年度事業報告、平成23年度事業計画へと進み、主な事業として、8月に予定されている「子どもブナサミット」の事業内容について意見が交わされました。そのほか、運営委員からの意見として「昨年度のミュージアム有料入館者数は3千人を超えており、初年度として健闘している。さらに期待したい」「ブナをテーマにした企画を今後も積極的に取り入れてほしい」などの意見がありました。その後、事業報告、事業計画について承認がなされ、閉会しました。



ミュージアムの休憩室にて運営委員会を開催

●只見町ブナセンター友の会の総会

掲示板を設けるなど具体的なアイデアが次々

只見町ブナセンターの活動を支援、協力する友の会（代表、小沼昇さん）の総会が、6月15日、「ただみ・ブナと川のミュージアム」において開催されました。出席者は18人。友の会は、昨年9月1日に発足し、現在の会員数は113人です。町内を中心に広い地域のメンバーが参加しています。

今年度の主な事業は、会報発行やミュージアム展示物の収集など。ほかに館内に友の会の掲示板を設けるなどのアイデアが提案されまし

た。友の会の入会案内は、只見町ブナセンターのwebサイトで紹介しています。



セミナー室にて友の会の総会を開催

只見町ブナセンター館長に就任して

鈴木和次郎



8年前、伊南川流域でユビソヤナギの自生地を発見した時は、只見町ブナセンターで働くことになるとは夢にも考えていませんでした。それ以降、前の職場（独立行政法人・新林総合研究所）で進めていた環境省の希少樹種研究プロジェクト調査に関わり、その分布と生態を把握するため只見町をたびたび訪れるようになりました。その度に驚かされたのは、只見町の自然の豊かさとおの深さでした。中でも感動したのは、雪によって削り取られた山肌に張りついている多様なモザイク状の植生とその圧倒的な広がりです。こうした自然環境が只見町の皆さんの闘いと努力によって守られてきたという歴史を知り、感銘を受けました。

言うまでもなく、只見町ブナセンターは、只見町の豊かな自然環境を守りながら、情報発信・交流の拠点として活動し、地域社会の発展に寄与することを目的に設置されています。こうした活動に欠かせないのが、只見町の自然環境の実態を知るための基礎調査です。これは「ブナと川のミュージアム」の調査活動として、大学や研究機関と連携して進めていきたいと考えています。その他にも、ブナをテーマとした特別展示や講演会、自然観察会なども企画していますので、ぜひ見に来てください。また、自然や環境に関する質問や問題がございましたら、気軽にご相談ください。可能な限りの情報提供に努めたいと思います。

鈴木 和次郎 （すずき・わじろう）

平成 23 年 4 月より只見町ブナセンター館長に就任。前職は独立行政法人森林総合研究所（茨城県つくば市）主任研究員。農学博士。専門は森林生態学、造林学。主な著書に『水辺林管理の手引き』『溪流生態砂防学』『環境修復のための生態学』（共著）など

ただみ・ブナと川のミュージアム

開館時間：午前 9 時～午後 5 時

（最終受付は午後 4 時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300 円、小中学生 200 円

未就学児無料、20 人以上は団体割引



〒968-0421

福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

「ただみ・ブナと川のミュージアム」内

web サイト ● <http://www.tadami-buna.jp>

E-mail ● info-buna@amail.plala.or.jp



Tel 0241 (72) 8355 fax 0241 (72) 8356